

株式会社 構造ソフト

今月のイチオシ

2025 年 11 月

機能解説

「BUILD.一貫VI」(Ver.1.41) …P1

Q&A (適判等からの指摘事例)

「BUILD.一貫VI」Q&A …P6

◆「BUILD.一貫VI」(Ver.1.41)

・旭化成建材株式会社・岡部株式会社製の「ベースパック」の「BCJ 評定-ST0335-01」に対応

2025 年 11 月にリリースした「BUILD.一貫VI」(Ver.1.41) より、旭化成建材株式会社・岡部株式会社製の「ベースパック」の「BCJ 評定-ST0335-01」に対応しました。

新仕様の角形鋼管用「ベースパック」の特徴は以下になります。

- 従来と同様に、軸力ゼロ時において、保有耐力接合を満足
- 大口径柱を中心とした一部仕様において、回転剛性値が向上
- 適用柱サイズを□800 最大板厚 40 mmまで拡大し、適用柱材に F 値 385 N/mm²を追加

新仕様の角形鋼管用「ベースパック」の型式名の末尾は F2、F3、F4 となります。

型式	柱材 F 値	適用柱サイズ
F2	295N/mm ² 以下	□150～□350
F3	325N/mm ² 以下	□350～□800
F4	385N/mm ² 以下	□350～□800

詳細はメーカーのホームページを参照ください。

<https://www.b-pack.net/>

・新仕様の型式は選択している柱に適合する登録符号のみ表示

対話入力において「ベースパック」の新仕様の型式は、選択している柱に適合する登録符号のみ表示するように改良を行いました。
柱に適合する新仕様の「ベースパック」の登録符号のみを表示しますので、柱と柱脚の組み合わせの不適合を未然に防ぐことができます。
ナビゲータウインドウの入力項目ツリーの[部材リスト]-[S]-[柱]の入力方法を説明します。

1. 柱形状、柱の鉄骨材料を選択します。
2. [柱脚定義]ボタンを押します。

S - 柱

1. 柱寸法、柱の鉄骨材料を入力します。

S柱符号: C1 階: 1F

柱頭・柱脚

鉄骨形状

形状(mm)	d	t	r	フランジ材料	ウェブ材料
BX	400	19	47.5	BCR295	

全体指定の鉄骨材料[フランジ: BCR295 ウェブ: SS400]

断面図

柱頭 柱脚

パネル板厚

材料: [選択]

X方向

☒ 板厚を指定[*]

☐ 有効板厚を指定

板厚: 自動 (mm)

Y方向

☒ 板厚を指定[*]

☐ 有効板厚を指定

板厚: 自動 (mm)

柱脚符号: [選択]

柱脚定義

鋼管内のコンクリート充填

☐ あり ☒ なし[*] ☐ CFT

圧縮フランジ拘束位置

柱頭からの距離[材長]: 自動 (mm)

柱脚からの距離[材長]: 自動 (mm)

座屈長さ係数

X方向: 自動 Y方向: 自動

柱リスト定義の注意点

表示中のデータを更新 表示中のデータを追加

2. [柱脚定義]ボタンを押します。

キャンセル ヘルプ

3. 柱脚の種類で[既製品]ボタンを押します。
4. 既製品種類で[ベースバック]を選択します。
5. 以下の内容で S 柱に適合する新仕様の角形鋼管用「ベースバック」の登録符号のみが表示されます。
 - 柱の外径
 - 柱の板厚
 - 柱の F 値
 - 軸力ゼロにおいて柱脚の保有耐力接合を満足する

3. [既製品]ボタンを押します。

4. [ベースバック]を選択します。

5. 柱に適合する新仕様の角形鋼管用「ベースバック」の登録符号のみが表示されます。

S - 柱脚

符号

S柱脚符号: 自動

柱脚の種類

露出 埋込 根巻 既製品

既製品種類
ベースバック

● 角形 ○ 円形、H形、(旧仕様)角形

柱材F値 (N/mm²): ● ≤ 295 ○ ≤ 325 ○ ≤ 385

Fc (N/mm²): ○ 21 ○ 24 ○ 27 ○ 30 ● 最下階[21]

登録符号	説明
35-12F2	
35-16F2	
35-19F2	

偏心距離

平面偏心 鉛直偏心

X方向に取り付けベース: 0.00 0.00 (mm)

Y方向に取り付けベース: 0.00 X方向と同じ (mm)

柱型立ち上げ部段差: 0.00 (mm)

ベースプレート

既製品柱脚は
描画しません。

表示中のデータを更新 表示中のデータを追加 OK キャンセル ヘルプ

テキスト入力の場合は、建物データの[CME3]で、以下の下線部のように入力します。

CME3 CC1 BK-35-12F2

「適用可能なベースパックがありません」が表示された場合は、柱材 F 値のラジオボタンを切り替えて、柱に適合する「ベースパック」の登録符号を選択してください。

□400 の BCR295 柱を用いた場合を例に示します。

P1 に記載した通り、F2 シリーズ (F≤295) で適合する柱は□350 までのため、□400 に適合する登録符号はありません。そのため、「適用可能なベースパックがありません」が表示されます。そこで、次ページのように、柱材 F 値のラジオボタンを切り替えます。

S - 柱

S柱符号: C2 階: 1F 柱脚=柱頭

鉄骨形状

形状(mm)	d	t	r	フランジ材料	ウェブ材料
BX	400	16	40	BCR295	

S - 柱脚

S柱脚符号: 自動

柱脚の種類: 露出 埋込 根巻 既製品 (選択)

既製品種類: ベースパック

柱材F値 (N/mm²): ☒ ≤ 295 ☐ ≤ 325 ☐ ≤ 385

Fc (N/mm²): ☐ 21 ☐ 24 ☐ 27 ☐ 30 ☒ 最下階[21]

登録符号	説明
なし	適用可能なベースパックがありません

偏心距離

平面偏心: X方向に取り付けベース: 0.00 (mm) Y方向に取り付けベース: 0.00 (mm)

鉛直偏心: X方向と同じ (mm)

柱型立ち上げ部段差: 0.00 (mm)

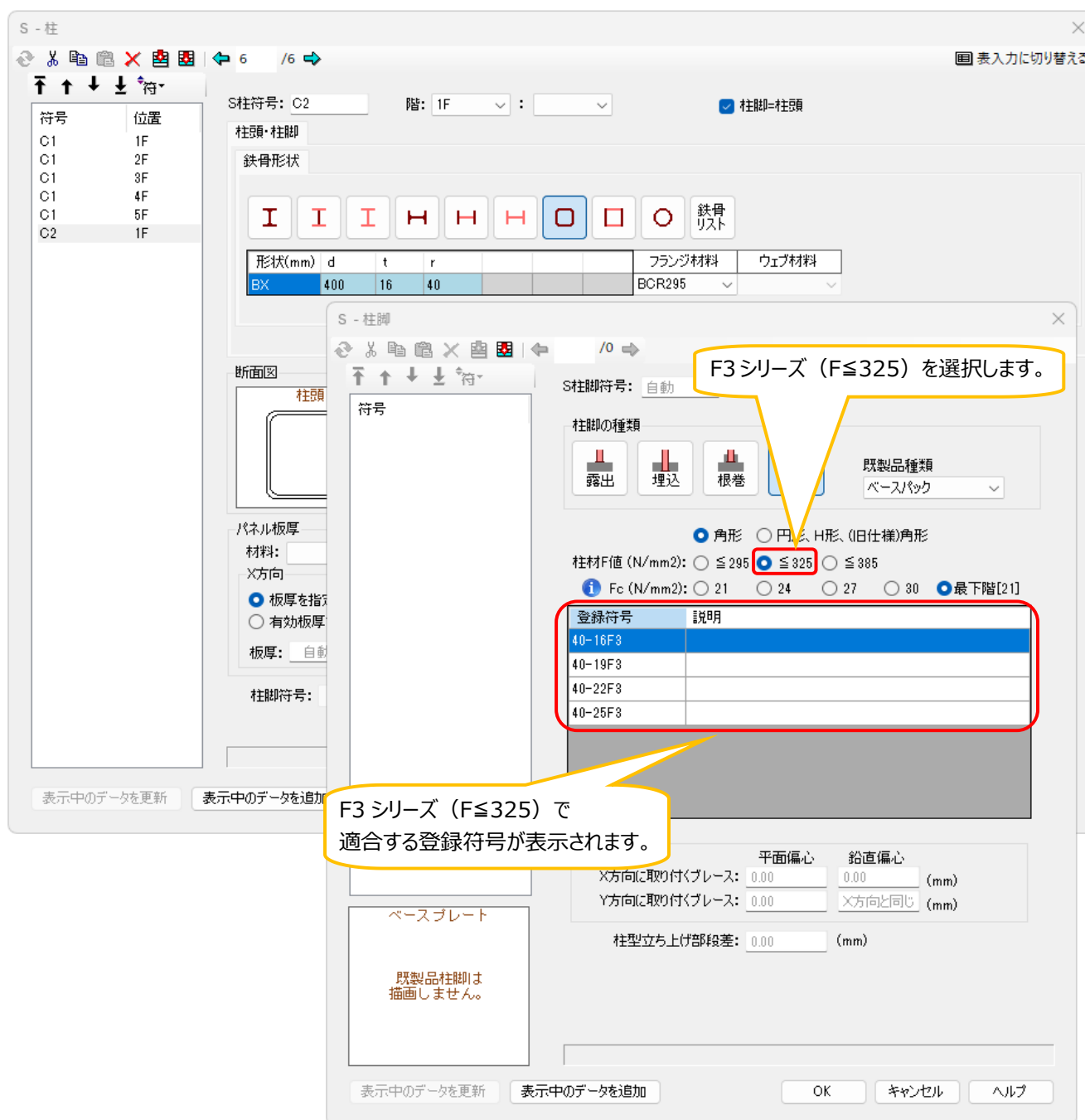
ベースプレート

既製品柱脚は描画しません。

表示中のデータを更新 表示中のデータを追加 OK キャンセル ヘルプ

F2 シリーズ (F≤295) には適合する登録符号はありません。

F3 シリーズ ($F \leq 325$) は□400 に適合するので、柱材 F 値のラジオボタンで [≤ 325] を選択すると、適合する登録符号が表示されます。使用する登録符号を選択して、柱脚符号を定義してください。



◆「BUILD.一貫VI」Q&A (適判等からの指摘事例)

タイトル：保有水平耐力時のせん断保証設計はどこで確認できますかと指摘された

Q. 計算ルート3の物件に関して、適合性判定機関より、保有水平耐力時のせん断保証設計はどこで確認できますかとの指摘を受けました。

出力項目設定で「部材のせん断保証設計」と「部材のせん断保証設計（保有水平耐力時）」をONにして計算を行いました、保有水平耐力時の結果が出力されませんでした。

どのように対処すればよいでしょうか？

A. Ds 及び保有水平耐力の算定に用いる増分解析が“一度の増分解析”の場合は、保有水平耐力時のせん断保証設計は検討されません。対処方法としては、入力項目ツリーの[計算条件]-[応力解析]-[解析モデル]で、Ds 及び保有水平耐力の算定に用いる増分解析を“別個の増分解析”の設定にしてください。(テキスト入力の場合は保有水平耐力計算データの[U L A 1]の8～9項目)

“一度の増分解析”の設定の場合、Ds 算定と保有水平耐力算定は同じ増分解析結果の履歴から計算します。この場合、Ds 算定時は保有水平耐力時よりも押し進めた状態であり、せん断力も大きくなります。したがって、Ds 算定時の保証設計が満足していれば、保有水平耐力時の検討でも満足すると考えられるため、保有水平耐力時のせん断保証設計は省略されます。

“別個の増分解析”の設定は、通常、Ds 算定と保有水平耐力算定で解析モデルが異なっている場合に設定します。解析モデルが異なる場合は、Ds 算定時よりも保有水平耐力時のほうがせん断力が大きくなる可能性があるため、保有水平耐力時のせん断保証設計も検討し、その結果を出力します。

※ [弊社ホームページの Q&A](#) では、この他にも、適判等からの指摘事例の Q&A を 390 件以上、通常の Q&A を含めると総数 4070 件以上掲載していますので、ご活用ください。なお、Q&A の閲覧は、[トータルメンテナンス](#)を契約中のお客様限定となります。